



福岡市の閑静な住宅街。表通りの激しい車の往來をまったく感じさせない。そんな思われた環境の中に菊竹さんのアトリエはある。壁一面のガラス窓から降り注ぐ太陽の日差し、裏の小さな森から聞こえる小鳥の鳴き声。「風の流れによつては、港から船の汽笛、山手から教会の鐘の音なども聞こえるんですよ。今では周囲に高い建物があつて見えませんが、以前は真卓に腰掛けて大濠公園の花火が見えていました。慌ただしい都市の空気から解放された、自然と隣合わせで過ごすことが菊竹さんの作品づくりに影響しているのだろう。私が目指すのは、「人間」と「自然」と「技術」の一体化。都市の中に彫刻を置くことで、都市を人間が心地よく生活できる場にしたいと考えたんです。菊竹さんは、小鳥のさえずりや人の声、車の音、風の流れなど自然の微妙な変化を受けて右へ左へ回転する、動く野外彫刻を生み出す。それはまるで自然と対話するような、人間に何かを語りかけてくるような作品である。「例えば、私が福岡に置かれていた彫刻の動きで、息子が住むニューヨークの風の流れなどの環境を知ることができれば素敵でしょう。彫刻が、都市と都市を結び、人と人を結ぶことができるんですよ」と語る菊竹さんは、今、インターネットを用いた彫刻や空気中のCO<sub>2</sub>の量を察知する彫刻などを誕生させ、注目されている。「私の彫刻が都市に環境の情報を与え、季節や時間や人間のコミュニケーションに活用されればうれしいですね。自然、都市、人間、彫刻：それぞれに熱い思いを傾ける。このアトリエ裏の森を散策するのが好きなんです。一緒に歩いてみませんか」と誘われ、やわらかい木漏れ日の中を歩いた。「人間と自然と技術が共存し、心地よく過ごせる都市が情報時代の都市ではないか。人々に安心安全の情報を発信する情報彫刻がこれからのパブリックアートです」と菊竹さんは語り続ける。



菊竹清文さん

1944年福岡県生まれ。中央大学理工学部精密機械科卒業。1981年京都市立近代美術館賞を受賞。1985年文化庁派遣芸術家在外研修員に任命され、N.Y.在住。1987年東京国立近代美術館賞を受賞。1987年フランス革命200周年国際コンペ入選。(1991年ポルドー市に設置される)1988年オーストリア World Expo Brisbane'88 正出入口に設置。1989年フランス政府よりフランス芸術文化功労勲章シュバリエ章を授与。1997年福岡市文化賞を受賞。1998年長野冬季オリンピックの聖火台を制作。

「情報時代の都市へ。福岡にはその可能性が大いにあります」

菊竹清文さん